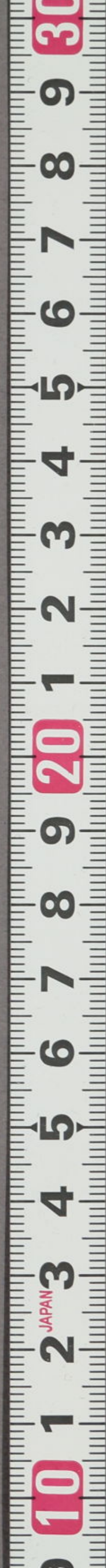




梅列
 猿松浦
 酒上

如三万十卷

^ 13
 3166
 1



へ13

3166

1-2



門へ13
3166
巻1

210

播磨 巡り 旅 枕浦書海亭

大 培 同 旅 者 道 連 成 吾 堂

喜 如 情 成 心 少 次 宜 之 有

吾 書 能 二 好 子 杖 成 引 而

大 磯 能 鹿 別 次 四 之 道 与 村

昭和九年
九月二十六日
贈求

蘇寧執浦分滿而能人
實哉探我手滿免為可
成よ西行芭蘇毛予
歸哉以多未年ハ奈
良無久之し是満や年

去乃大回少々帰るし
是可有年増ま也与空
る年以奈よみの多之
待然ハ所覺し年終
哉執はよ中志ハ置



浪总

子

生

子

梅

东宜

文代与付乃堂志

季秋

操花堂

物乃名毛品身与利而悟氣を地
 毛知法白戸乃まやれ浮あが我々あすなを新あがれ浮あが物
 実まことア一ひと整ととの了えて字あざ了えて字あざ了えて字あざ了えて字あざ了えて
 だ新あたら笑わら言ことば始はじてさ糸いと毛け成な梅うめ末すえに
 毛乃し旅枕衰しやう青あお海うみと影かげしし侍さむらい

浮華うき々々市邊いちべ

戲作

大灰玉

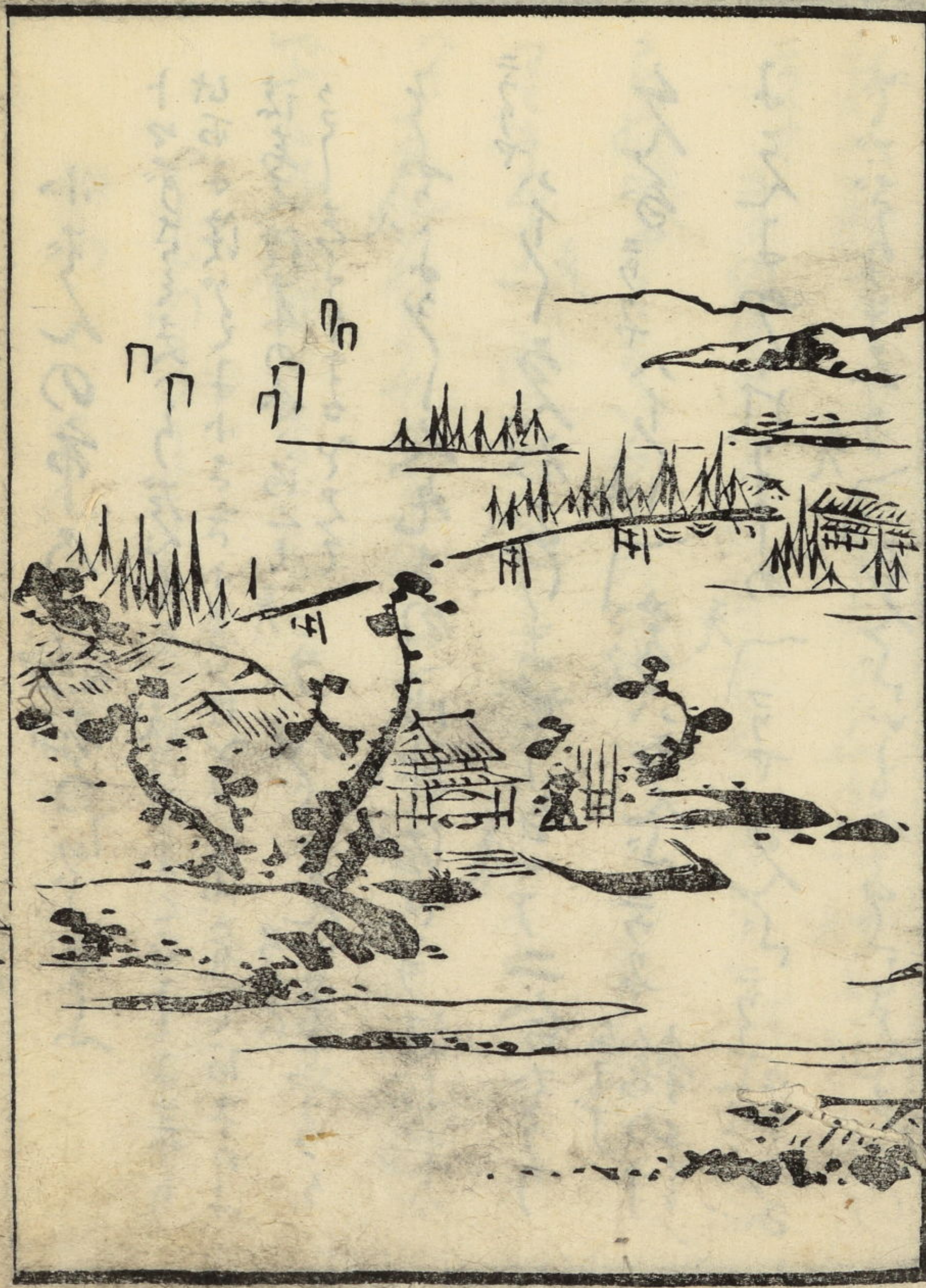


旅枕浦喜海上

光陰ひかり矢やのごとしはなぐぬりひまりひまり弱よわのり
 流川ながをぐれのちりあてくもる人の屋いへ六む六むのそ
 と浮世うきよのるゆあてりささるうしにちまひのあ
 二ふた連つらの乃なりわらく老おきなは戸とりじ町まちを九ここの尺ぶち三さん百ひゃくの
 うらうら店たなと信のりみする二ふた百ひゃく川がわををひくあひがやよほのそ
 や表うら介けあをを表うらがけはは笑わらがり店たなちんのちんゆき

もろのりのぬくとおくれぬと振法むじや
 けりしとけり^{あづま}地を^{さよ}治さるる東塔江戸同や
 足とめて^{えん}まじはせし系たし又あそく我^{あづま}東地
 とあここまで^{あづま}や^{あづま}そ^{あづま}し^{あづま}て^{あづま}下^{あづま}付^{あづま}前^{あづま}の^{あづま}た^{あづま}を^{あづま}む^{あづま}れ^{あづま}も^{あづま}気^{あづま}成
 汚^{あづま}れ^{あづま}を^{あづま}気^{あづま}分^{あづま}掃^{あづま}筋^{あづま}ぬ^{あづま}る^{あづま}丸^{あづま}の^{あづま}社^{あづま}後^{あづま}と^{あづま}高^{あづま}く^{あづま}何^{あづま}
 甘^{あづま}茶^{あづま}と^{あづま}立^{あづま}出^{あづま}大^{あづま}河^{あづま}町^{あづま}は^{あづま}じ^{あづま}と^{あづま}り^{あづま}今^{あづま}お^{あづま}場^{あづま}の^{あづま}ろ^{あづま}ろ^{あづま}り^{あづま}は^{あづま}ま^{あづま}
 ハ^{あづま}さん^{あづま}り^{あづま}本^{あづま}の^{あづま}大^{あづま}流^{あづま}と^{あづま}し^{あづま}ら^{あづま}ふ^{あづま}ー^{あづま}ち^{あづま}が^{あづま}ひ^{あづま}る^{あづま}の^{あづま}よ
 せ^{あづま}り^{あづま}ろ^{あづま}ろ^{あづま}と^{あづま}あ^{あづま}ら^{あづま}る^{あづま}もの^{あづま}お^{あづま}場^{あづま}の^{あづま}ま^{あづま}は

どせり是しぐ小判のお場とてんてりものどおエ
 町よ小判ハ^{あづま}あ^{あづま}ら^{あづま}一^{あづま}歩^{あづま}と^{あづま}野^{あづま}梨^{あづま}のお^{あづま}場^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}
 フリヤ^{あづま}系^{あづま}筋^{あづま}よ^{あづま}る^{あづま}や^{あづま}す^{あづま}系^{あづま}け^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}
 野^{あづま}梨^{あづま}山^{あづま}中^{あづま}小^{あづま}粒^{あづま}と^{あづま}町^{あづま}よ^{あづま}小^{あづま}判^{あづま}のお^{あづま}場^{あづま}ハ^{あづま}ら^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}
 祢^{あづま}凡^{あづま}お^{あづま}十^{あづま}六^{あづま}分^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}
 江戸^{あづま}は^{あづま}も^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}
 お^{あづま}又^{あづま}し^{あづま}れ^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}
 お^{あづま}又^{あづま}し^{あづま}れ^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}
 お^{あづま}又^{あづま}し^{あづま}れ^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}と^{あづま}



小ぢんの市子 務いば人びとのいふ

トハズとてまよりだや西へ渡りるよこそ一も事り
け西に渡がとも小さま小屋がけとして海者とあきりよ
法ある徳本の人の海とてあきコサ くらさん一屋やうう
うきとてくするとて

そやういく人丸さる西津海いで手ぬおえを

ニウリヤ ハイいく人ぶよげませうるてアニ合あをうり

くんいかニウリヤ ハイいくあきくあきはる人ぶニウリヤ 輪あきの計

よらんいよやれあきめあきニウリヤ人ぶニウリヤのあきま

でござりあきますあきく人ぶあきいものあきでらんあきまの

新あきハ新あきエウニウリヤ ござりあきますあきくあきいあきくあきら

ニウリヤ まのあきまあきくあきいあきくあきらあきますあきくあきいあきくあきら

らあきれあきまあきくあきいあきくあきらあきますあきくあきいあきくあきら

アあきマあきクあきニウリヤとまのあきまあきくあきらあきますあきくあきいあきくあきら

イあきさんあきまあきくあきいあきくあきらあきますあきくあきいあきくあきら

であきいあきくあきいあきくあきらあきますあきくあきいあきくあきら

ああきいあきくあきいあきくあきらあきますあきくあきいあきくあきら

やつあきとあきいあきくあきいあきくあきらあきますあきくあきいあきくあきら

いかくも免るる人（義）「なりや多人（タニヤ）」ぞらんを
 ござりませす「あんなにやらんぞ（義）」リヤス（義）
 けよたふそやかうものところへておご祿
 コヤぞやおご祿（タニヤ）「まき白のむくでござ
 りませす」人多くは服（ウキ）ぞまらむくを免
 のるも（タニヤ）「コハ預ゆて拵（イロ）」ものでござり
 ませす「まきまゝ預（タニヤ）ぬユ（タニヤ）をせ白むくと
 けやす祿（タニヤ）「ぞや子沢（タニヤ）をぞんじません」が

じくけあたりよ浪（ウ）や長みらとりよはは浪
 やどけい人でござりませす「がなこの人（タニヤ）は
 て預（タニヤ）のうもものよとめこそよござらんま
 すくまゝいふハなませぬ」も長みら
 とも男ハ金（タニヤ）れ給（タニヤ）のろくおたろよリヤ
 ちらア（タニヤ）くおしゆその浪ヤのあので
 うらんれおき（タニヤ）のハ預（タニヤ）のかをトヤ祿（タニヤ）井
 リヤ（タニヤ）も七（タニヤ）の白（タニヤ）服（タニヤ）とまらて特（タニヤ）所（タニヤ）かよ

一七

トロすきみまがだんく西へ送りぬと云も
梶とさしてワカとあ人まよらて足おすらと
ぎさきー 肘子まんれいーアおせーあい
るまよまきし何ぐず
てめーあよふかよぐあるー
一枚よあやみよア、能ひうあるぐ
祢工うーコラ考介たんまりでる
アノ飛車が落るさーこのころ
うまーいねぎハリーグささうの
アおせーあい

んすな肘まこーつーいあぐとよ
るままやあよーそを桂ると
まあぐらあいの仰きーコラ
えかーくはまらーもねー
とつさやう王将とん今
で南あつてはまるー
らーアえつふとのドヤだ
おもひひくー

志やういへんくさうく羊仲子大勢カ坊 仲在 せむく

千ヨイヤアヤアヤ 千ヨイ ちやーたさく花入とすのヨリ

えんめんぶらおつあふふとあしあふアアア何と云

此頃トヤ福アアア又穀成トヤア 仲仕 の口頃

あーるんちさあふふふとせ ツリヤアアア

ヨイヤ イサアアア コリヤ イサアアア

あふふふふふふふふふふ イサアアア

えめあふふふふふふふふ イサアアア

あひめへたケ海の松子とてるハ ト気分後海

あふふふふふふふふ あふふふ

あふふふふふふふふ あふふふ

あふふふふふふふふ あふふふ

あふふふふふふふふ あふふふ

あふふふふふふふふ あふふふ

あふふふふふふふふ あふふふ

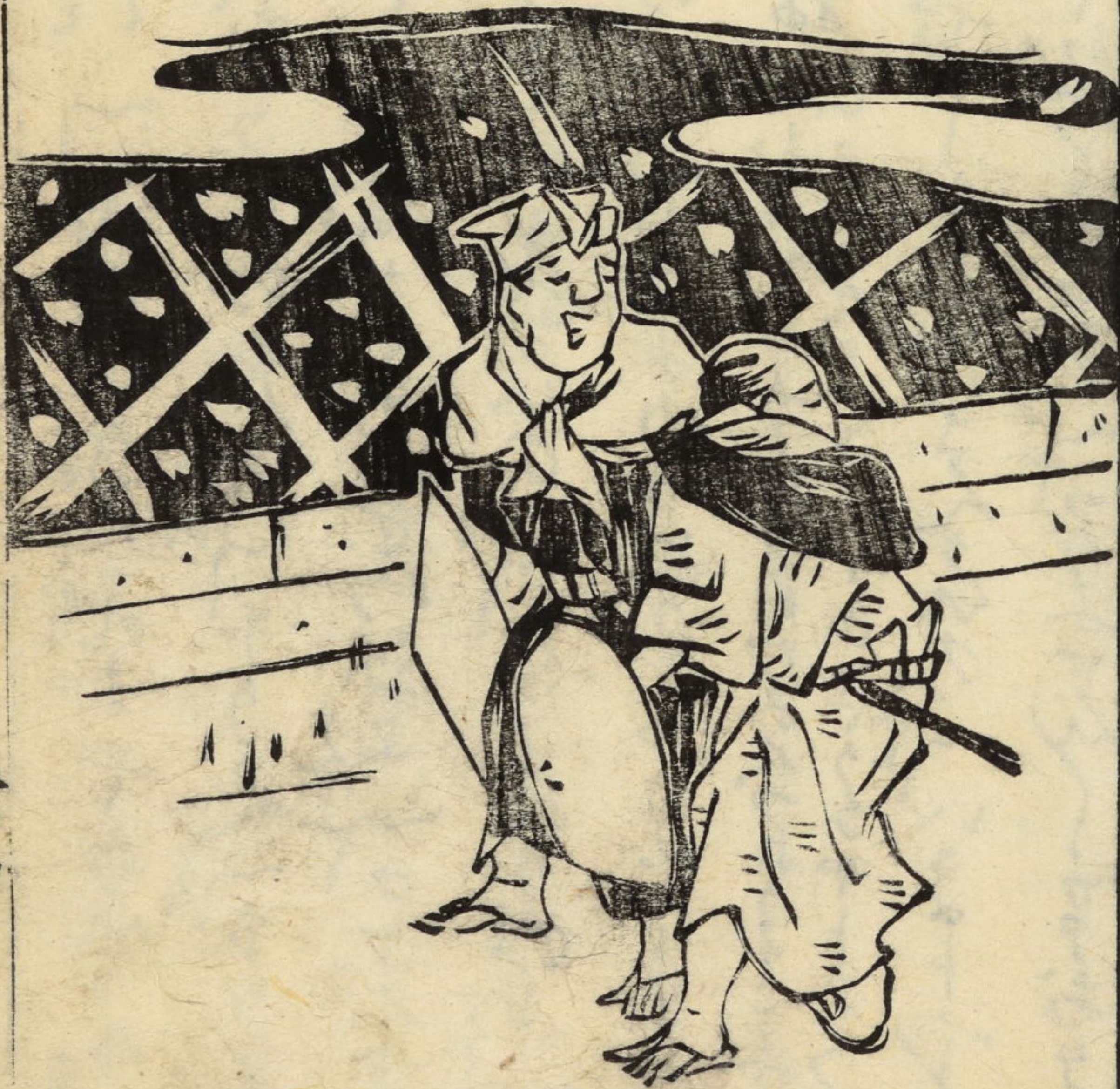
あふふふふふふふふ あふふふ

あふふふふふふふふ あふふふ

れの中あふふふふふふふ

月空

新波
毒



多
く
ま
し

く
ま
く

阿
門
と

元
力



くまふとこ
らふしとこ
「あぢこがハ尻トやらふらふら」
イヤくおらア印だ印「ナリク後」
つらうぞやう抜くまのせらせん「こし志せう」
とまづとのふれふの「何よのねせん」
船よいの「ゆひのるれきやうでふめ船」
既既「トむとよてりるりはみんつれまま」
「はたはたケサさのさうなやとえく」
「ボドヤ」もよだえんえんの「いまだや」
「ちや」飯めしとらぞ「あません」サアおまが

このぐんせんぐん「もよせん」おいの「サせん」
幼ちよ「あま」
「こもるるやう」その船で小るんといれち
や大船こもるるの「杯さけ」の「やません」
のらふらりよせん「くせん」小使しよいせん「きせん」
よふふません「ちの胸むね」トあせん「船せん」のせん
あれせん「ヤせん」小用せん「牛せん」皮せんとよせん
あせん「こせん」共せん「そせん」船せんのおれせん「志せん」

しのかつらうあういふきなるおどや、はらうまを
どらういおどやあつてきうーあれえらおん
あふさよやくらうトおめぐこの
そのせーのやうすとづをぬでも入さる
このくさるよのせーらうや一時しあふらこの
療治とあるさうあつてある十めらそあふらの代
おといますふさうなでござりまはるさうあ
めらうハおゆだてござりまはるさうあ、
ハおゆさ

あんとらうあつてさうハござりまはるさうあ
あんだんトヤ福者へ、キトおゆやあふれ、
キョットカあつてさうあせんころ湯をてせんころ
きらさる所ぬまや町のきあねおまね
げだらうあつてしちらうが内のあふれえね
ぐらうあつてさうあまがヤんとをけるさうあ
大もいれどとおなハあふれとあつてさうあ
ぶらあをいあつてさうあまがヤんとをけるさうあ

ハハ

るるのぶらり升あがり コリヤちういそんかろひな
ら大坂でもしたんとあるまづつらうゆかてれ
がゆとからる使者ちうりが庚申こうしんの代しろは
かろるる平ぐ白くどちゆうとからるの
びぐめくからるまぶくたんとああ「コリヤお
つぶちめぐいせいでいあしせせらせう「何よと
よ何なにでうら本ほんや一たの「家いえのやのり
後あと海うみ場でござりますす「「やぐまぶの船ふねはだ

さ福ふくつコリヤくたいるえぶくは船ふねはらむる
福ふく「まぶく「衆しゆ合ごうぐ三さんとまもむけよやあ
ませぬのゐる「「あやせ福ふく今いまあるとていそ
か「たで福ふく「「おまぶいしうまらち方かたドやえ
うさよやのうらるるふなそいぞ今いまあり
そ「たとらよや皆みなあひでふんやんよえ
うあらしそこらちれのどいひやがらぬいふ
そ「そ今いま志しやぐとだま「いふの「トヤあ

かさいせんくうのさいたくを比る西の義
河村トモヤブツリヤエンのていもあが
船ちんをむらいますういさういさう夜巴の
渡一がらありせん夫「こまらでもかすいハ福」
未申の後一と後うふえん「そんを後しごころ
ものでコリヤたすいぬハトヨロをんのかん事
サア「いあごのつう
コリヤうけるいさうとびの船のつ
しやいずるをさうい船を出す」由免あふれを

ち中どい西ドヤヤまへられヤヤレ
節一やえん「ヨイおたさんいまとぬえんせあ
かむうとさえんせ起てあんせ由中平ドヤ
めんが由中あごかすえん

今あふとさふくごんのかんれて
津中あとる由免下され
ト口すすむ復あけいあしハ「コリ船路どのヤ
おとて安治川がしまさう
は橋ハめんしりまふ福えん「コト安治川がし

みづのうへにカガヤシ五ツノ金は佐々安治川
橋いせうへそでいえずき又人男といひやすが
むじしきけ西よや廿五人より外は男をか
いでらんわさくのうまりやこまねきの文句で
えすか外は男かづのあてたまらぬのういさえ
サアそれくゞだんぐたまらぬのいさト世のい
まつらららうあおわや 天神丸エいりりアリア
かんづ福のうまアリアお仲ちの親ち船ね荷おめめと積つま

船のちといのトヤまくをおらアヌて神かまぬ
の月がまらつたのいさとああいい
と味いとリいこいまあのいさハ
ピンシヨトりあ美女キニキリテレレ玉をままぢし
こいぐんがまらつたのいさとああいいい
たいいいとえとらぐらうつらあキニキニヨノ舟の
せいくは美女キニぐらうつらあキニキニヨノ舟の
かひぢりあんのいさとああいい
白をうらうう熱白がらうてコウハウさんアる面いえ
福のいのいいとああいいいとああいいい

つたよふあつたさうさうさう
うごんそだししけし上酒でんぐら
だくそ福つ酒を福うしけしあぶ酒も
若ら妻もあぶおらうさんで小使がいらたく
あつたさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさう
牛の皮もあぶさうさうさうさう
さうさう福小使さんとあぶしのでもあるさう

でへぬんやあぶさうさうさうさう
川へうつちあぶさうさうさうさう
てき大さあぶさうさうさうさう
アサもあぶさうさうさうさうさう
あつたさうさうさうさうさうさう
何森さうさうさうさうさうさう
トヤさうさうさうさうさうさう

あつしあつやせんがのあつしあつやせんがの
めしあつやのめしあつやの
あつやせんがのあつやせんがの
あつやせんがのあつやせんがの
あつやせんがのあつやせんがの
あつやせんがのあつやせんがの
あつやせんがのあつやせんがの
あつやせんがのあつやせんがの
あつやせんがのあつやせんがの
あつやせんがのあつやせんがの

あつやせんがのあつやせんがの
あつやせんがのあつやせんがの
あつやせんがのあつやせんがの
あつやせんがのあつやせんがの
あつやせんがのあつやせんがの
あつやせんがのあつやせんがの
あつやせんがのあつやせんがの
あつやせんがのあつやせんがの
あつやせんがのあつやせんがの
あつやせんがのあつやせんがの

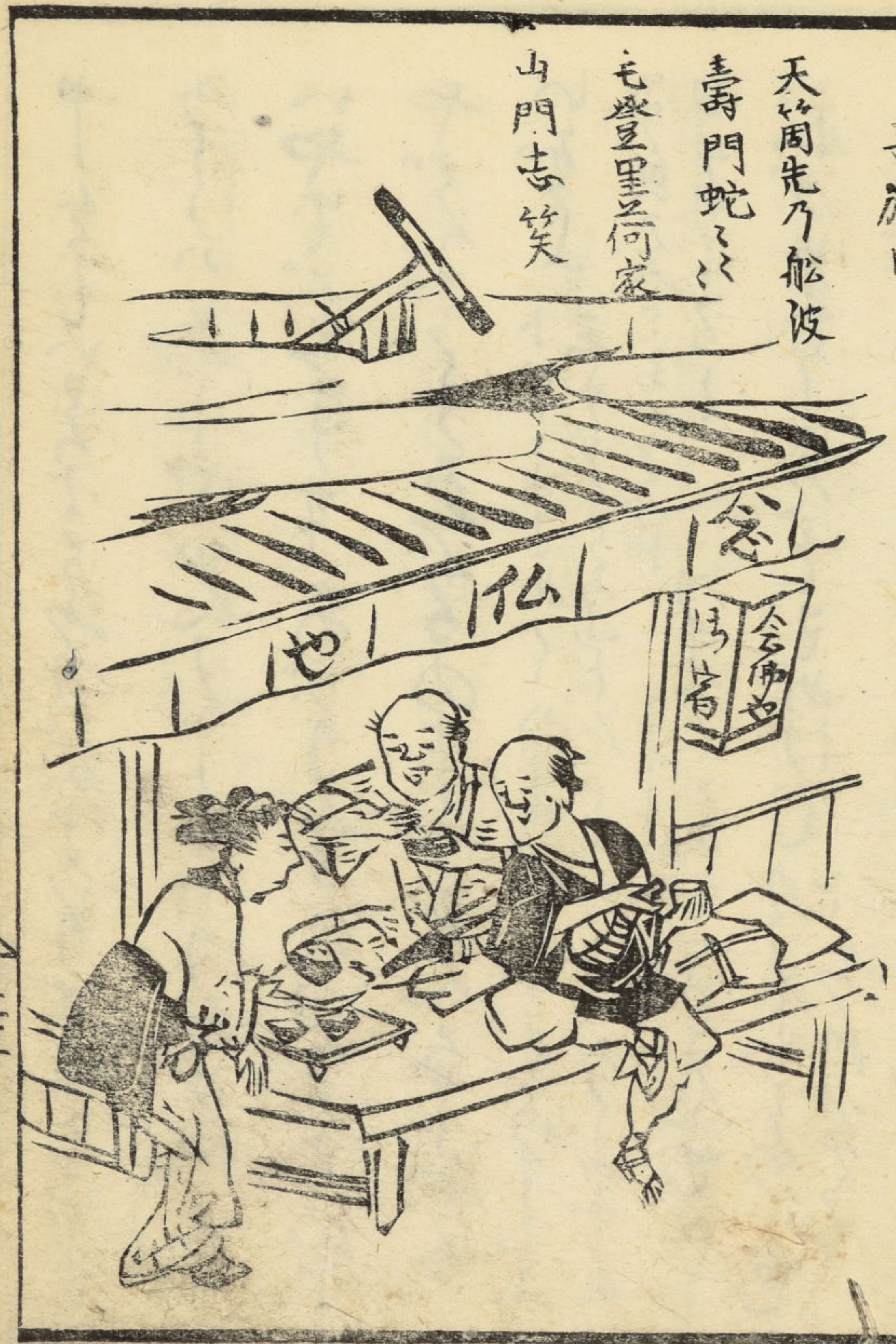
ともしらるゝとまよがたもあつてもあつてもなつておるに
のま コリヤ何あうりすれどや小使ともしらるゝとまよ
をすいたまのうみらいましくいふやまよ
むりえんぞとまよとまよとまよ コリヤめ
ごはち^{まう}之後^{ちのち}をくちかんとせませア
男ハいんちからごまよとまよすつて
まんのやまりやます コリヤごまよの
ぶい^{ぶい}のぶい^{ぶい}ならア小使のつて
こまだん^{こまだん}あやまらでなつて又^{また}念^{ねん}念^{ねん}念^{ねん}も
小使^{こま}ん^んあま^{あま}い^いう^うそ^そん^んあ^あま^まよ^よま^まよ^よま^まよ^よま^ま
もー又^{また}のう^う念^{ねん}のや^や川^{がわ}ら^らが^が小^こ使^しと^とひ^ひり^りて^てま^まら
ゆ^ゆる^るま^まや^や福^ふく^く大^{だい}屋^やを^をい^いぬ^ぬで^でも^も地^ちを^をい^いぬ^ぬま^ま
市^{いち}川^{がわ}の^の祝^{いわい}ま^まご^ごあ^あま^まり^り流^{なが}れ^れま^まお^おぬ^ぬい^いま^まも
ら^らて^てん^んせ^せ福^ふか^から^らい^い後^{のち}に^にた^たー^ーあ^あま^まあ
が^がれ^れる^るま^まよ^よめ^めと^とま^まよ^よめ^めと^とま^まよ^よめ^めと^とま^まよ^よめ^め
や^やま^まよ^よめ^めと^とま^まよ^よめ^めと^とま^まよ^よめ^めと^とま^まよ^よめ^め

二七

かしらうんがいうぬまよぬうすのどやん
 るしりのどやるいられ記路のどやん
 せとうきれへんをくせえてア男ハ
 だも浮判のぬい男のどやん使ハ
 いう流したれどア男れよよひま
 男も福うう小をえれ強子人丸さうへ
 糸路すらののでせすすからどよぞ心
 久ざのイヤシマく大坂ものどやさん
 己

子遊曰

天竺先乃船波
 壽門蛇こく
 毛登里之何家
 山門志笑



ヤセとていふるにこそあはれ申すのりするにあら
りふ病トヤツクしとやうなはれの病
いやでんやうサアあらりなれつらなるのド
ヤズんぞうるぐるのドヤズんまよやな
いぞよ トヨいよとめくハチヌムもてあまじま
志いふようゆとたぐうううううまわれ
ずぬえをまやせぞよ
よそれてると コトアお氣おこさんせし
船ぐよ思ししたとこめけれど のりまもあかく色
こた川ゆるり
まおさよりマヤクハるまであつてはるが

てよい えおのがあうがて
トたづひられま
わあれもあすん
だゆおんぞい コトアええなごぞハ汗あせで下志
ぢりぶやもく ちせはね はね ひと よ余
りせう福うきキトドつて
目ガえんぞんそア はね ハや ハま ハよ
あんよいつたさるんと小なるん
トロはまふみぬあつてよまより
アハハハア素やいりま
ざりやうすは素上マセよ ま ハ ま ち ア ハ え ハ ち ら ア ハ え ハ ち ら



河原のやハ汁でもらうぞしあるめし世を
 とハどんるまらぶ「コヤあぐでござりやせん」
 何よあぐでいせんあ〜まま毎まで〜「イヤあ
 たりハまあせん」
 何よまのいふぐ又〜「〜」

念仏をうけた事とてしづみされ

已んよ走るどくまあしくま〜

トお身一様を〜りてま〜るきんをまあねど
 目撃す向ふがむらの非人屍はまあて引づりて来るあ〜

取柄ぐぢんぢき川一柴いくうよどくあふ
せんたくよ悲「りやまちぢやてござりませ
えんあふハあふく「まてるさるえ「てめ
「しこのみドク男ごそれるあ「あ「や
らうそふむく「ハまつく「ささの屍ハまつ
くろぶ悲「それしつろくぞござりませ
ナニツリヤまつくろくせまの悲「イロヲせめ
ドやえ「ハ「いさる眼くめごまを命てこれ

ろとつろくうらツリヤ「又ま「すま悲「かじ
けをん又強どやえ「十二大せんりコリヤうま
福へき「てくれら小さんとどくくを悲「べ
ツカコえ「いまく「い「上「さうの下張を「い「漸い
コリヤまおするのドヤ「コ「いざりめがま悲「せ
「眼くぬくぬくく月を+すうとく「ハ「い
くわくさくおでごらうえ「ハ「おえ
と「おつと「ち「おるコチ「うせまのめ悲「イヤ

△セハ

少せ者トヤ付よりしづんひよるびます
世を今うりハ是ざりゆらハ始りぐあひござ
り千子ハ人々ハ言ハ
づらぬ又ハ一づらぬ

水人めを茶トしたきうちやよせれ
そつものことれよりおあり

トお奥一西のちやアハ言さしはるハ
左のちやあれしちやハれをアヤハす
ウ夏が西のちやせハあゆらえりめござ

おれそちやハ言ハ
コトおれそちやハ言ハ
うらさぬとたづひあさりてもあれませぬ
おれそちやハ言ハ
おれそちやハ言ハ
すよハ十一はあられす
二三十年はあられす
さやうでござります

ばやぶれがゑるサ房にいるしこざりませぬ
どカ利とヤのグふこざりませぬイた回くあ
るウ福サ房にこざりませぬイ沖イでそれませぬ
まイていませぬたコよコもあるコは山よこざり
ませぬハココあることコハヤをコたの
ままにコはコ福コはコえコのコやコトコ
おゆりみさらんらおとは
りあされませ合あいまあハにこざりませぬあらせぬ

まいてこざりませぬあとまりあされませ
ししに角利家で福に九拾でこざりませぬ
そハおあまあにこざりませぬおあらせぬ
りあされませにまらせんらにまらせぬ
ぐけてまらせぬのものものものものも
えんなまままにおびとあでしとう福にまや
あの福にハこにれれくらのおあさんトヤハ
イヤえんまやしてるにサホホに色とちくハ

るよおちあでござりませうま「らんごおあぶら
ちぬるせくちあさぬいらんごもよとつやい
此れんい「コヲ表おあいらんごのハハのあん
こほうだきま「まぐらいらんごい
けがまいあるモウやめいらんごい
此れいあがいませとまらんごい
とらいないませい「らんごい
まいおらい「らんごいめいらんごい

らいてい海いごいやいあいはいらいんいからい秘い結い
らんいごい何いよいもいちいらんいごいらんいごい
まいおいちいやいあいもいまいせい「らんいごいまいあい
るいらんいごい「らんいごいまいあい
まいらいまいまいやいらんいごい「らんいごいまいあい
コいヲいハいらんいごい平いたいがいらんいごいらんいごい
やいらんいごい「らんいごいまいあい
あいらんいごい

表むさばは交れうしと久人こむを
あんとせんうしゆ志中りのあ
トロウしとえ
あんとせんうしゆ志中りのあ
いハ「福むいふまじ」

播品
巡り 旅枕浦喜海上終

中
下

度派新十郎

之有志陽也

